

総会、第5回講演会・講習会

今回で5回目となりました恒例の講演会と講習会、毎年参加者が増えてきています。講演会の前に総会を行いました。今年度の計画、事務局、代表委員、監査担当などの承認をいただきました。

講演会『新しい障害児教育制度の中の聴覚障害児支援』

筑波大学心身障害学系助教授の鷲尾純一先生をお招きしてご講演いただきました。



講演の始めに、鷲尾先生の経歴、近況、家族の紹介をされました。恩師、黒木総一郎先生との話、北九州市立総合療育センター、国立特殊教育総合研究所で取り組んでこられたことの紹介がありました。

教育制度に関して、特別支援教育を理解するために、特別の場で行う「特殊教育」から児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じた教育支援を行う「特別支援教育」への転換を説明されました。

特別支援教育という枠組みの中での聾学校の姿として、ニュージーランドの聾教育センター Kelston Deaf Ed. Center では、聾学校としてのセ

ンターの機能として、・教育センター・リソースセンター・研修センターという役割を持ち、聴覚障害児者に対して生涯にわたって教育支援を提供する場となっているという紹介がありました。(関心のある方は「未来へ向かう聾学校 ケルストン聾教育センター」鷲尾純一 『聴覚障害』49-5,1994をお読みください。)

最後に、保護者と聴覚障害児へのサービス向上、発見と診断、経済的支援、子育てパートナー、聴覚補償パートナー、以上の点から聴覚障害児教育における多領域間の緊密な繋がりの重要性を述べられました。

午前中の鷲尾先生のご講演につきましては3月に収録を発行いたします。

講習会

今年も大阪府立生野聾学校を会場に2日間、開講しました。

今回は補聴器、人工内耳各社による補聴器、人工内耳の紹介などの講座も開きました。補聴器に関してはデジタル補聴器やFM補聴器に触れたり実際に調整してみたりできる講座がありました。

講習会の様子



『語音検査と聴能の評価』



『難聴学級の取り組み』

講演会・講習会当日にお書きいただいたアンケートから

講演について

- ・特別支援教育のあり方が理解できてきた、学校の将来像もおぼろげながらつかめてきた。
- ・特別支援教育への移行と聾教育との関わりをもっと勉強するの必要を感じた。

講習会について

- ・(発音指導では)実際に教材を作れて良かった。来年もぜひ。
- ・補聴器の調整の解説で実際にパソコンで入力できたので具体的によく理解できて良かった。
- ・(難聴学級での取り組み)作文の指導、さっそく使っていこうと思います。
- ・福祉のことはもっともっと勉強しないと知らないことばかりだと思った。

全体を通して

- ・年に1回の貴重な講座なので日程を延長していろいろな講座をとれるようにしてください。
- ・会場の移動で道に迷った。

アンケートにご協力ありがとうございました。いただきましたご意見、ご感想を今後の取り組みに活用させていただきます。

秋の講演会

『聴覚障害幼児の療育について

～聴覚活用とコミュニケーション～

11月1日(土)大阪市営地下鉄松屋町駅近くの味覚糖UHA館で今年も秋の講演会を開催しました。講師に岐阜難聴幼児通園施設みやこ園から伊藤泉先生、森下功先生をお招きして、午後1時半から4時半まで、みやこ園の様子をビデオなどで紹介しながら、療育の現状と課題についてご講演いただきました。みやこ園での学習や行事の取り組み、家族への支援、情報提供をビデオとOHPで実際の場面を見せていただきました。森下先生には乳幼児の補聴器の選定とフィッティングについてもお話いただきました。参加者からは、幼児の指導に関する質問や、補聴器に関して新生児から数年後までを見通した器種決定をどう考えたら良いかといった質問が多く出されました。

講演の詳しい内容につきましては3月発行予定の収録をご覧ください。



今後の予定

平成16年	1月16日	第3回代表委員会 滋賀県立聾話学校
	1月17日	冬の学習会 (滋賀県草津市 草津市立サンサンホール)
	2月中旬	機関紙第11号発行
	3月中旬	収録発行

機関紙担当からお詫び

機関紙前号(第9号)に誤りが2つありました。

代表委員の紹介の欄に大阪府立堺聾学校 奥るり子先生のお名前を載せておりませんでした。

講演会・講習会の日が間違っておりました。

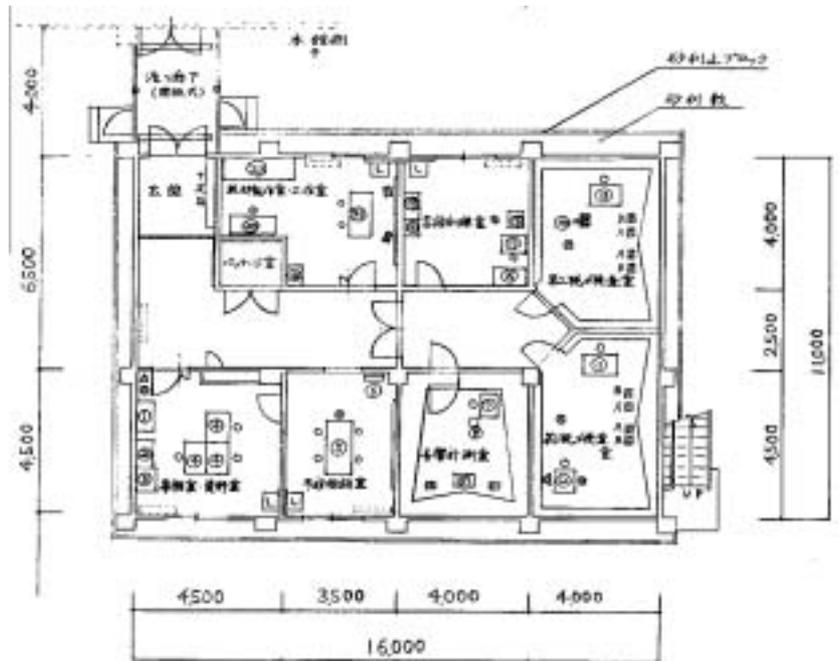
ご迷惑をおかけいたしました。お詫びして訂正いたします。

建物探訪

滋賀県立聾話学校 聴力検査室の紹介



この建物の1階が聴力検査室です



(上の写真は予診相談室)

前号で和歌山県立和歌山ろう学校の新しくなった検査室を紹介しました。今回は滋賀県立聾話学校の検査室を紹介します。上の図をご覧くださいとわかるように、7つの部屋があります。本館1階の廊下とつながる渡り廊下、玄関を通り、最初に来室される場合は予診相談室に入ることになります。ここでは、きこえに関する状況をお聞きすること以外にも、新生児用オーディオメータや音の出るおもちゃを使って聴力検査を行うこともできます。子ども用の椅子、絵本、おもちゃが用意されているので楽しく検査ができるようになっています。部屋の特徴として、廊下側にはドアがなく、広く場所を使って検査できるようになっています。隣の音響計測室には補聴器特性試験装置を2台設置しています。中耳の状態を調べるインピーダンスオーディオメータもこの部屋に置いています。第1・第2聴力検査室ではオーディオメータを使っての標準の聴力検査のほか、様々な聴力検査ができる設備があります。言語訓練室には発音の練習をする機械があります。



音の出るおもちゃを使って検査をすることもあります。

聴力検査機器の紹介

右の写真はスピーカーから音を出して聴力を調べる機器です。検査音に反応するとスピーカーの上にあるモニターに楽しい絵が映し出されるようになっています。



読んでみました

3回目となりましたこの企画、今回も3冊選んでみました。機関紙担当（滋賀聾 村尾）のへ難聴学級の担任をされている先生方から、指導で役立つ事柄や留意する点について問い合わせをいただくことがよくあるのですが、その折によく紹介する本がいくつかありますので今回はその中から2冊選びました。もう1冊は人工内耳に関する本です。人工内耳についてもっと知りたいのだがどんな本があるのかという声に、これまでも何冊か紹介してまいりました。今回と合わせてお読みいただくと良いかと思えます。これからも、紹介してほしい本がありましたらご連絡ください。



聴覚障害児の
言語指導～実
践のための基
礎知識～
我妻敏博 著
田研出版
ISBN4-924339-
91-1 C3037
2,600円

「この本は聴覚障害児教育を専攻する学生や聴覚障害児教育にこれから携わる教師を対象に書いた」と最初に書かれている。難聴の種類と特徴、聴力検査、補聴器と聴覚補償の項から始まり、音声ときこえ、早期教育、言語指導に関するまでをわかりやすく解説している。特に著者の研究する聴覚口話法の指導法が多く挙げられている。



人工内耳装用
者と難聴児の
学習
城間将江
井脇貴子
氏田直子
中村淳子 著
学苑社

ISBN4-7614-9603-7 C3037
2,500円
96年の初版以来、様々な場所で実践に用いられているので、ご存じの方が多いかもしれない。表紙にも「家庭でできるドリルブック」と書かれている通り、ドリル形式になっているのだが、前半は概論編としてきこえや音声の仕組みが説明されている。



Monthly Book
ENTONI No.27
人工内耳
久保武 編集
企画
全日本病院出
版会
ISBN4-88117-3
75-8 C3047

2,381円
毎月1回発行の耳鼻咽喉科領域の医学誌。人工内耳の適応から手術、人工内耳機器の特徴と選択、音声コード化法、マッピング、装用効果の評価など、10名の専門家によって書かれている。各社人工内耳の中から選定した理由をアンケート調査した内容も興味深い。

(出版各社の許可を得て表紙を掲載しております。)

近畿教育オーディオロジー研究協議会ホームページ

講演会、講習会、学習会の案内と申し込み、近畿各地の研究会の案内も見られます。開催予定の研究会の情報をお寄せください。機関紙バックナンバーをダウンロードできます。
<http://web.kyoto-inet.or.jp/people/non007/>

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局 事務局長 中井 弘征
〒639-1122 TEL 0743-56-2921
奈良県大和郡山市丹後庄町456 FAX 0743-56-8833
奈良県立ろう学校内 メール h-nakai@indigo.plala.or.jp

近畿教育オーディオロジー研究協議会ニュースへ 情報をお寄せください



〒520-3014 滋賀県栗東市川辺664 滋賀県立聾話学校 聴力検査室
村尾 敏則 (近畿教育オーディオロジー研究協議会 機関紙担当)
TEL 077-552-1352 (聴力検査室直通) FAX 077-554-1538
メール JZJ02634@nifty.ne.jp

